

令和元（2019）年度 第1回熊本市公共交通協議会 議事録

I 日時等

1. 日 時：令和元（2019）年7月29日（月）午前10時～午前11時30分
2. 場 所：熊本市役所 議会棟2階 予算決算委員会室

II 主な内容

1. 開会

2. 議事

（1）部会構成、専門部会委員について

（事務局）

資料1-1、1-2を用いて説明

（2）各専門部会での検討内容について

（事務局）

資料2～5-2を用いて説明

（委員）

- ・今回の再編でこれまで直通だったところでも乗り換えが必要となる場合があるが、障がいのある方は特に、乗り換えた後、その先どこに行けるのかわからないと不安がある。そこで時刻表などに乗り換え先の表示を記載するなどの工夫をしてほしい。例えば、植木が乗り換え地点となっているが、植木の停留所からどのバスに乗れば山鹿や玉名に行けるのかわかるような工夫は検討したのか。

（事務局）

- ・今回の再編にかかわらず、乗り換えがわかりにくいという声はいただいている。この4月より運用を開始している「バスきたくまさん」というバスロケーションシステムのデータをバス事業者からグーグルなどのバスの検索サイトに提供を行っていると聞いているので、このような検索サイトを利用していただくと、どこに行くにはどこで乗り換えてどのバスに乗ればいいのか検索が可能。
- ・バスの時刻表の中にも乗換案内があればいいと思うので、今後バス事業者と検討していきたい。

（委員）

- ・障がいのある方の意見を反映させることで、一般の方の利便性も高まると思うので意見交換の場を設けてほしい。

（会長）

- ・特に高齢者については、このバス停ではどのバスに乗り換えると病院に行けるといことがわかるといいが、現状ではだれもわからず運転手に聞いている。運転手の負担軽減と利用者の利便性向上のためにも、今後検討してほしい。

(委員)

- ・バスロケーションシステムについては、便利とは思いますが認知度が低い。どのような周知を行っているのか。

(事務局)

- ・各バス事業者においてはバスの車内やホームページ、市でも市政だよりやホームページ、庁内掲示板を通じた職員からの周知などを行っているが、まだまだ周知が足りないと感じているので、資料4で説明したとおり今年度はこの周知についても利用促進の中で取り組んでいきたい。

(委員)

- ・高齢者に対する周知もお願いしたい。

(事務局)

- ・これまで小学生向けの出前講座を行ってきたが、高齢者向けも行っていきたい。また、10月中旬に予定しているシンボルプロムナードでの利用促進キャンペーンにおける周知も行っていく。

(会長)

- ・高齢者向けの周知とは具体的にどう行うのか。

(事務局)

- ・例えば公民館などでは各種講座があるので、講座の中で公共交通に関する時間を取っていただき周知していきたい。

(委員)

- ・市民もバスや電車を使うことがいいということは理念としてはわかってはいるものの、実質的なお得感がないとなかなか実行できないのではないかと。近所のスーパーでは夕方になると20円の割引券が渡されるが、20円でも行列ができています。行政か、民間かどちらが主体なるべきか不明ですが、中心市街地に公共交通で来ると割引があるとか、イベントに公共交通で来ると割引やポイントが付与されるなど、一歩踏み込んだ利用促進を実行してもらいたい。
- ・今後、国際スポーツのイベントが予定される中、観光客に向けたバスや電車の利用促進も大事である。植木や小天温泉、玉名などは観光地でもあるため、その案内をするなど、市民の立場になり、結果につながる利用促進が必要。

(会長)

- ・インバウンド対策についてはどう考えているのか。

(事務局)

- ・主な国際大会については、シャトルバスで対応すると聞いているが、せっかくお越しいただいた観光客に公共交通を使っただけだと考えている。このタイミングで桜町バスターミナルのオープンやバスの行先案内も新しくローマ字表記に変わるので、バス事業者と一緒に少しでもご利用いただけるような取り組みをやっていくと同時に、経済観光局と一緒にいただいたご意見を参考に取り組んでいきたい。

(会長)

- ・時間に限りもあるが、アイデアがあれば事務局にお知らせください。

(3) その他 (今後のスケジュールについて)

(事務局)

資料 6 を用いて説明

3. その他 (報告事項)

(1) 西南部地域におけるバス路線廃止について

(産交バス)

報告資料 1 を用いて説明

(会長)

- ・バス路線がなくなったら困るということはわかるが、地域説明会で特定の路線に対する具体的な意見などはあったか。

(産交バス)

- ・特定の路線へのご意見というよりは、路線がなくなるということに対し、地域やご利用の皆様より、インフラとして必要なのではという意見が多かった。

(会長)

- ・産交バスより乗務員不足について厳しい状況と説明があったが、今後の見通しは。

(産交バス)

- ・採用を強化しており、以前と比べると少しは改善してきたが、働き方改革などで運行状況は変わらずともこれまで以上の要員が必要となってくるため、このような環境も考慮しながら対応していきたい。

(2) 熊本桜町バスターミナルについて

(九州産業交通ホールディングス)

報告資料 2 を用いて説明

(3) 熊本都市圏におけるバスの案内記号について

(熊本バス)

報告資料 3 を用いて説明

(委員)

- ・単に漢字からアルファベットに変わっただけではないようだが、当分の間、時刻表に新旧併記するなど、慣れるまでの周知についての工夫は考えているのか。

(副会長)

- ・慣れるまでは併記は必要だと思うが、バス前面の行先表示も LED なので工夫すれば新旧の併記も可能ではないか？

(委員)

- ・案内のチラシはこの1種なのか。エリアや方面ごとにもっと細分化されたものを作った方が高齢者にもわかりやすいのではないか。

(熊本バス)

- ・バス停では利用者にわかりやすいよう新旧の表示を行い、あわせて新旧一覧のチラシも配布予定だが、多くの情報を記載しているため、字が小さくなった。ご利用部分だけを抜き出したものを作るなど個別の対応もしたい。また、バス前面の行先表示での新旧併記も検討したが、全体の字が小さくなり、実施が困難。

(委員)

- ・高齢者にはチラシの文字が小さいと思うが、高齢者でも簡単にできるようにバーコードなどを読み取ればスマートフォンに出てくるなどの工夫はできないか。天草などの観光地では写真などをかざすと交通案内が出てくるような取り組みもやっているようだが、手軽にできるとよりわかりやすいと思う。

(会長)

- ・インバウンド対策にもなっていると思うが、どのあたりが便利になったのか。

(熊本バス)

- ・バスロケーションシステムにもこの新しい表記は採用されていて、各バス停に表示されているQRコードをかざすとこの案内記号も含めた形で案内される。また、インバウンド対策としては、グーグルで検索すると、案内記号や行先、バス停名称は英数での表記であるが、利用者の言語に応じた操作画面で案内できるため、これまでの漢字表記よりわかりやすくなっている。

(委員)

- ・大事なのは行先と経由地だと思うが、見本だと経由地は小さく表示されるため、表示内容をアルファベットのもの、行先・経由地だけのものに走りながら交互に切り替えて、経由地も大きく表示してはどうか。

(委員)

- ・私の利用するバスはこのアルファベットだと覚えてしまえば簡単にバスに乗れるし、町内回覧板などでこの地域はこの番号だと周知すれば良いため、はるかに便利になったと思う。

(熊本バス)

- ・第二経路区分でおおまかな行先が決まり、枝番は終点やそこに近いところを表しているため、これまで使っていた漢字表記より利用しやすいと思う。

(委員)

- ・グーグルで検索できるとのことだが、GPS機能などを活用し、寝てしまっても降車バス停近くになれば、振動で起こしてくれるようなアプリがあると、乗り過ぎもなくなるのではないか。

(会長)

- ・いろいろと工夫されており大変だったと思うが、周知にも力を入れてほしい。

(副会長)

- ・ 西南部の再編に関連して、バス路線廃止の際は、まずは地域と協働で取り組む定時運行のコミュニティバスを検討し、その後予約型乗合タクシーを検討すべきではないか。地域とコミュニティバスの検討は行ったのか。

(事務局)

- ・ 当該地域で、以前運行していたゆうゆうバスの利用状況から考えると、コミュニティバスの利用も少ないのではないかと懸念があった。また、今回の路線の廃止区間の利用実績は、1便あたりほとんどの路線で1人前後だった。今回導入を予定している予約型乗合タクシーは、運転手のほか4人乗れるため、バスではなくタクシーの導入に向け地域の方々と検討しているところ。
- ・ 今回のバス路線の廃止にかかる一番の理由は乗務員不足であった。コミュニティバスの導入となるとバス事業者に依頼しなければならないが、乗務員が確保できないということもあり、今回の予約型乗合タクシー導入に向け、市タクシー協会にも協力をお願いし、現在進めているところ。

(副会長)

- ・ 資料2の公共交通グランドデザインの改定の説明の際、当初の策定時から大きな変化があったため今回改定するとあったが、どのような変化があったのか。

(事務局)

- ・ 都市交通マスタープランが策定されたことが一番大きな変化だと考えている。公共交通と自動車交通のベストミックスについてもこの都市交通マスタープランに記載されているが、このグランドデザインはその前に策定している。市街地に近いところでは公共交通を主体とした交通体系としていくということを経済デザインにも盛り込んだ方がいいのではないかとということで、今後専門部会で検討しながら、よりわかりやすい形で市民の皆様にもお示ししたい。

(会長)

- ・ 今後専門部会で議論していくことになるが、このベストミックスを落とし込む上で、事務局でイメージしているものはあるか。

(事務局)

- ・ 専門部会で議論していきたいと思う。

(会長)

- ・ 本日は新しい方向性や新しい委員の方の紹介もあり、また新しい桜町のバスセンターや系統番号の話などありましたが、今後も電車やJRも含め新しい公共交通体系などについて検討していきたいと思っている。熱心なご議論をいただき誠にありがとうございました。本日の意見を参考に引き続き取り組んでいきたい。
- ・ 本日の議事を終了する。